

青森抄

山田真砂年

人類に十万年の薬喰ひ
一茶忌や留守居の昼のカツブ麺
百年に一秒の誤差去年今年
勾玉のやうに冬蜂死にゐたり
寒星や軒の薬草乾びる
トンネルに冬の塊ありにけり
冬菊にけふあたたかき小諸かな
冬木立生きるに歩き続けをり
いま舟の形に冬の月の蝕
柚子たわわここにも一人住まいかな
日溜に寒の椿の音立てて
駅前の雪踏んでみるクスと鳴る

青森八句

駅弁匂ふ車内暖房ちと強し
混浴の灯り乏しく虎落笛
踏み入れば甘く匂へる落葉道

枯木山音無く風力発電機
枯柏漁師の家の潮に灼け
石斧に飢ゑの記憶や黄落期

バスの歌詠みて八戸棄てにけり
霧の後付いて走りぬ枯野原

寺山修司記念館